

で「グガハハ」と大胆な笑いをしながら、目だけは繊細な人であった。そこは新聞記者である。

ある夜、わたしは東京・下北沢の行きつけのスナックで飲んでいた。演劇人や映画人が集まるスナック「絃子」である。そ

「この人を女優にすることはできませんか」と不躰に相談を持ちかけられた。女優になるのは簡単である。本人が「今日からわたしは女優です」と宣言

朝長さんが長崎の本社に戻ることになり「いま下北沢で飲んでみます」と電話があった。慌てて駆けつけると、だれか偉い人の墓にお参りするとかで、すでに帰った後であった。どうにも自分本位の人である。常識外れといってもいい。もう、あんな新聞記者はいないのかもしれない。いても困るか。スナック「絃子」は、とつくにない。朝長さんとは、いまもいい交友関係にある。生涯の友となった。

# 某地方新聞の記者

わたしの古い友人に朝長昭生氏がいる。ご存じ、トモナガと読む。某地方新聞の記者であった。わたしを初めて新聞に取り上げた人である。東京支局に在職している時には、よく我が家を訪ねてみえた。東京支局は新橋にあった。新橋の居酒屋でもよく飲んだ。

「この人を女優にすることはできませんか」と不躰に相談を持ちかけられた。女優になるのは簡単である。本人が「今日からわたしは女優です」と宣言

朝長さんが長崎の本社に戻ることになり「いま下北沢で飲んでみます」と電話があった。慌てて駆けつけると、だれか偉い人の墓にお参りするとかで、すでに帰った後であった。どうにも自分本位の人である。常識外れといってもいい。もう、あんな新聞記者はいないのかもしれない。いても困るか。スナック「絃子」は、とつくにない。朝長さんとは、いまもいい交友関係にある。生涯の友となった。

「朝長さんがお見えになって



おかへ。こうだい、1979年に「肥前松浦兄妹心中」で岸田戯曲賞を、89年に「一重世子」で紀伊國屋演劇賞個人賞を受賞。日本劇作家協会元理事。松浦市で毎年、子供たちにミュージカルを指導している。川崎市在住。70歳。

(松浦市出身)